

令和2年度 安曇野市食育推進会議 会議概要（要約）

1	審議会名	安曇野市食育推進会議
2	日 時	令和2年11月11日 午後1時30分から午後3時00分まで
3	会 場	本庁舎 会議室305
4	出席者	本郷会長、堀内副会長、中田委員、豊田委員、高岡委員、藤原委員、田島委員、永井委員、寺口委員、小林委員、柴田委員
5	市側出席者	高橋保健医療部長、黒岩健康推進課長、久保田センター長、高橋課長補佐、渡邊課長補佐、小松管理栄養士、長田管理栄養士、伊藤管理栄養士、堀川歯科衛生士
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和2年11月17日
協 議 事 項 等		
【会議の概要】		
1	開 会	
2	委員の委託	
3	保健医療部長あいさつ	
4	安曇野市食育推進会議条例について	
5	会長・副会長選出	互選により本郷実委員を会長に、堀内隆雄委員を副会長に選出
6	会長・副会長あいさつ	
7	協議事項	
	(1)	令和元年度食育推進事業実績および進捗状況について
	(2)	第3次食育推進計画目標達成のための意見交換
	(3)	その他
8	閉会	
【協議概要】		
(1)	令和元年度食育推進事業実績および進捗状況について	(事務局) 資料-1に基づき令和元年度食育推進事業実績および進捗状況について説明。
(会 長)	様々な世代、分野での特色ある取り組みがあるが、食品ロスについて、ドギーバッグ等食べきれなかった分の持ち帰りのような取組をしてみてもどうか。	
(委 員)	テイクアウトの実施店舗では持ち帰りパックで対応しているところもあるのでは。持ち帰ってもらうことで店舗側での食品ロス改善にもつながる。	
(会 長)	様々な考え方や手法があるので今後の取組として検討を。	
(会 長)	様々な講座をしてもそれは限定的で、一般には伝わっていない。減塩食や心臓病に配慮した食事ができる食堂のような施設を作り、提供することで、実際の生活に合わせてこのような食事が食べられるということを広く一般的に伝えてみるのはどうか。	
(委 員)	実際に入院して1ヶ月病院食を食べ、体の状態が良くなった。退院後は家族の協力も必要。	
(会 長)	身長により適正体重は決まっているが、中高年になって体重が増えた場合肥満だけでなく浮腫も疑うこと。20代の体重を維持するのが理想。女性は出産や産後の環境の変化により体重増加してしまうこともある。大きな原因の一つが、子どもが残した食事を食べてしまうこと。作りすぎないことで、食品ロスにもつながる。	
(2)	第3次食育推進計画目標達成のための意見交換	(事務局) 参考資料、資料-2に基づき安曇野市のライフステージを通した適正体重について説明。

- (会 長) 人は血管とともに老いるという。参考資料にはまさにこのことが表れており、血管が丈夫であれば老いはゆっくりになる。早い人では10代から動脈硬化が始まる。血管は硬くなってから狭くなり、詰まる。最近では外来で血管の硬さを測る簡単な検査もあり、又、動脈硬化を改善する薬もある。食事、運動、生活習慣の改善が基本だが、それでもだめな場合は薬を使う時代にもなっている。
妊娠高血圧症候群の人から生まれる低出生体重児は50%とあるが、実際の数字はどうなっているか。
- (事務局) 平成30年度のデータでは、妊娠高血圧症候群の妊婦30人中15人が低体重で生まれている。
- (会 長) 75歳以上では認知症のうち糖尿病の人が3割とある。糖尿病と認知症の間には関係性があるということで、糖尿病が万病のもとというのはこういうこと。ライフステージ別に何をやるのが一番いいのか、安曇野市として考えて新しいアイデアを出し、全国に誇れるような市にしたい。
- (委 員) 長期的な視点で見ていくということで小児への関わりがある。学校関係との連携はどうなっているか。
- (事務局) 学校教育課担当者との話し合いを実施している。県内の市の血液検査やその後のフォロー等の状況がどうなっているか、回答をいただいた。県内の10市ではHbA1cや血糖の検査を行っている。他市の取組を参考にし、検討していきたい。
- (3) その他
- (委 員) 欠食児童について生活に支援が必要な家庭への協力がどのようになっているか。又、生活保護受給の方々への食事の提供、過食からくる食べ残しの有効利用の取り組みができればいい。
- (会 長) 朝に給食を出すという取り組みはどうか。
- (委 員) 毎年堀金小学校で「味覚の授業」を実施している。朝食を食べてきているのは1/3～1/2程度。又、だいたい一人で食べてきたという。朝は家族で食事を食べるような環境づくりも推進した方がよい。
- (委 員) 食品ロスに関しては、スーパーでのお惣菜等、企業の食品ロスも多いのでは。減塩するということについては塩分の1日の摂取量を減らすということであり、減塩料理でもおいしく食べられる。惣菜を上手に取り入れながら自分で手作りすることで家庭の味の維持に努め、さらには減塩ができればなおいい。
肥満に関してはストレスも原因なのではないか。
- (委 員) 豊科の社会福祉協議会から安曇野市商工会へ、子ども達の欠食の改善に対応したいということで協力の要請がきている。
- (委 員) 「手作り弁当の日」を実施しているが、これをするにより子ども達が自分で家にある食材を使い、朝食を食べられるような能力がつく。手作り弁当の日をもう少し充実させた方がいい。又、今回は肥満と糖尿病に注目していたが、中学校女子のやせも問題があるのでそちらにも取り組んでもらいたい。
- (会 長) やせについては大学生にも多く、今後も増えていく可能性が高い。そこにも注目することで低出生体重児の出生率低下にもつながる。
- (委 員) 保護者への啓発が全て。食に関しては保護者に働き掛けないとうまくいかない。肥満と残食ゼロが課題。残食ゼロにしようと思うと、よく食べる子にあげてしまう。よく食べる子は肥満の子というところが学校としては頭を悩ませるところ。朝食について、女子はダイエット目的ということもあるが、朝食をとるということは時間を確保するという。今の学校は時間に追われている。朝食を学校で食べる取組となったときに、根本的にカリキュラムから変えていかなければならない大きな取組だと感じた。
- (会 長) 学校の現場からの貴重な意見。総合的に物事を考えていかないといけない。その中でもできること、大きな比重を占めるものに力を入れて取り組んでもらいたい。

※会議概要は、原則として公開します。